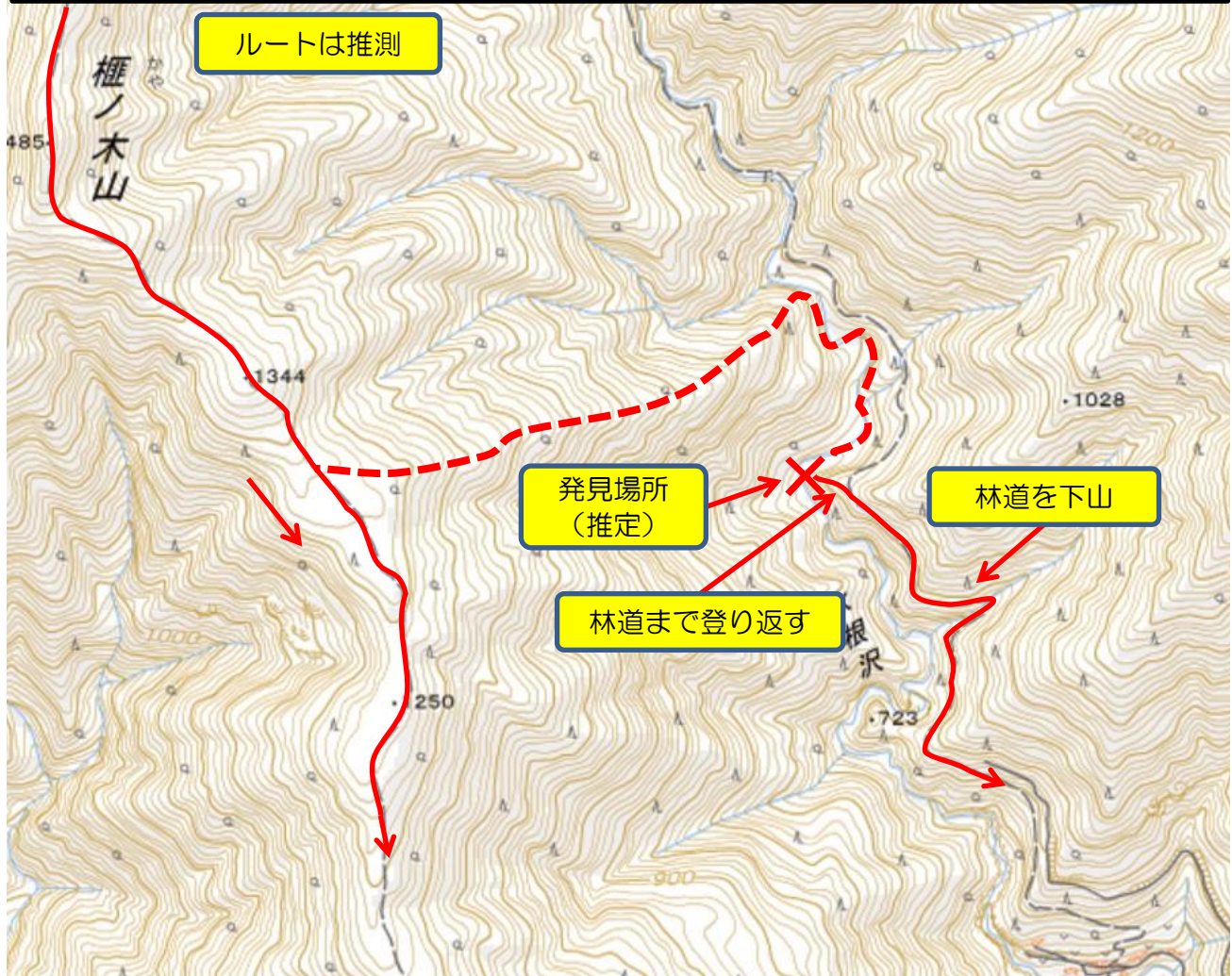


榎ノ木山遭難(2017年5月)

沢に立っている単独の男性を沢登の登山者3名が発見。道迷いしていると聞き救助した。



解説

最初釣り人かと思ったんだけど、綿の上下着てたし、様子がおかしい。聞いた話を総合すると、鷹の巣からの帰りに榎の木尾根から迷い込んだらしい。少し消耗してたけど、幸い怪我がなかったので、そこから水根林道まで50m登り返すことに。ハーネスとチェーンアイゼンを貸して装着してもらい、ロープFIXしてアッセンダー使って5ピッチで林道へ。(沢屋ならロープ不要だけど、ハイカーさんで悪路不慣れなので確保。)そのまま駐車場までエスコートしました。

「迷ったら沢筋を降りたらいいって聞いた」って言われて、3人ともロアングリビクリポン！Σ(°Д°)でしたが、「今度から迷ったら尾根に登り返して」としつつくっておきました。(HP参照)

「道に迷ったら沢筋を降りたらいい？」私も初めて聞いた。勘違いして覚えたのだろうか？

国立登山研修所の「登山研修VOL38」に島田和昭さんが『失われつつある危機管理能力』と題して書かれている中に、『ほとんどの遭難は「本能」によって回避できる』と書かれている。自分自身で考え、本能を磨くことが、安全登山に繋がると私も思っている。

沢を下ったら安全か？滝は出てこないか？考えればすぐ分かるはずだ。